

68. “小さなバリア”は無限の可能性の天敵！

自分で決める勇気を持ちなさい。勇気が愛を育てます。

親は子の幸せを願うものですが、その気持ちが選択を誤らない保証はありません。ときに親は子供の幸福を阻害することさえあります。愛に関して若者も真に正しい判断力に基づく勇気を持つ必要があります。

一人の女件がマーフィー博士を訪れてたずねました。

「私は結婚すべきかどうか、判断ができません。 どうして自分のことを自分で決められないのでしょうか。自分で自分が情けなくて仕方ありません」

彼女がそうなるには理由がありました。かつて彼女には何度か、結婚してもよいと思える青年が出現したのですが、そのたびごとに母親が強く反対し、娘の結婚の機会を奪っていたのです。

彼女はうつ病になり、自分で何も決めることができず、将来への希望を失っていました。博士が勧めたのは、自分のことは自分で決める勇気を持つことでした。彼女は母親から離れて生活することを決心し、アパートを借りました。

一人暮らしは彼女に新しい人生をもたらしました。彼女は母親にもほかの誰にも相談せずに、自分の心に叶った男性と結婚する決心をしたのです。彼女は今まで愛を求めながら、勇気がないためにそれを得ることができなかったのです。

彼女のようなバリア（障害）を持つと、肉親の愛情以外の愛情を持つことができにくくなります。博士は言います。

「愛は外に向かって働きかけるものです。あなたの妻を勇気を持ってあふれ出させなさい。そうすれば潜在意識の周りにまとわりついていた否定的な感情は、雲が晴れるように跡形もなく消え失せます」

愛は対象を求めます。愛の衝動だけで対象が現れないと、次第に精神がゆがんでいきます。そうすると、間違っただけの対象に向かうようになります。おそらくこの女性の母親は、自分の娘をそうした間違っただけの対象にしてしまっていたのです。

肉親の愛情を過大評価するのは間違いです。本当の愛を獲得したいと思うなら、親から独立する勇気を持つことです。その勇気がない人は生涯、親にすべての判断を委ねてしまうこととなります。それでは本当に生きたとは言えません。
